

動物学 『ぼくたちはみんな旅をする』



ローラ・ノウルズ/文 クリス・マッデン/絵 石川直樹/訳 講談社

おどろ 驚くべき動物の旅

世界には旅する動物がたくさんいます。水中を泳いだり、空を飛んだり、陸を歩いたり、様々な手段で移動します。その理由も、食べものを探するため、暖かく過ごすしやすい場所を見つけるため、子どもを産んで育てるためと、様々ですが、旅は生きるために必要なことなのです。

なかには、信じられないようなきよりを旅する動物もいます。キョクアジサシという鳥は、なんと、北極と南極の間の96,000kmものきよりを飛んでいるのです。

他にも、陸ではのんびり歩くオサガメが、海を長きより泳ぎ、オオカバマダラというチョウは、美しいオレンジ色の羽を羽ばたかせて暖かい場所へと向かいます。

全部で25ひきの動物目線で語られる旅の物語は、どれも本当のお話で、面白く興味深いものばかりですよ。

国際理解 『のぞいてみよう外国の小学校』全3巻

ERIKO (定住旅行家) /著 メディア・ビュー/編 汐文社

ぜんぜん 国によって学校は全然ちがう！？

世界中の学校の様子を見比べることができる本です。どんな学校で、どんな授業を受け、どんな行事があり、どんなごはんを食べ、放課後はどのように過ごしているのでしょうか？

例えば、机をコの字型に並べて、先生が真ん中に立って授業を行う国。学びたい内容を自分で選んで、調べて、発表する国。黒板ではなくスライドを使う国。ロボットを製作する国。比べてみると、日本の学校とのちがいがたくさんあるようで、新しい発見ができますよ。

また、その国の特徴や、日本とのつながりも書かれており、意外な関係性を知ることできますよ。

ちいきべつ ぜんぶ 地域別に全部で3巻あります。



物語 『灰色の服のおじさん』



フェルナンド・アロソソ/著 ウリセス・ウェンセル/絵 轟 志津香/訳

のこ 心に残るおはなしばかりです

スペインで名作となった物語で、全部で8つの短いお話が入っています。どのお話も、おどろくような意外な結末があったり、じんわりと心が温かくなるようなメッセージがこめられていたりしていますよ。

タイトルになっている『灰色の服のおじさん』は、毎日同じことのくり返して、服だけでなく、目の色まで灰色のおじさんが主人公です。でも、心のなかは、にじ色をしているのです。なぜなら、おじさんは、歌うことが大好きで、オペラ歌手になることを夢見ていたからです。それなのに、会社の中でも歌を歌ってしまい、歌うことを禁止されてしまいました。しかし、この後、意外な結末をむかえるのです…。

物語をひとつずつ、ゆっくり、じっくり味わってほしい本です。

物語 『手紙 ふたりの奇跡』 福田隆浩/著 講談社

だれかに手紙を出したくなるかもしれません

秋田県に住む小学校6年生の女の子穂乃香は、どうしても知りたいことがあり『祖父の思い出』という作文でコンクールの優秀賞をとった長崎県の6年生の男の子耕治に運命を感じ、手紙を書くことにしました。穂乃香は、昨年急に亡くなった母が少女時代に長崎県で経験したという奇跡みたいな出来事が何だったのかを探りたかったのです。母は、「大事な大事な秘密なの。」と言って、その時の出来事を教えてくれないまま、亡くなってしまい、聞くことができなくなってしまいました。

穂乃香は、母が教えてくれた「キッチンの本当の名前はなんでしょう？」というたった1つのヒントをカギに、耕治との手紙のやりとりで、なぞを解いていくのですが、母の思い出にたどり着くことはできるのでしょうか？

2人の手紙のやりとりで進んでいく温かい物語です。

